

ようこそ認知症ケア研究誌へ～編集委員長より

Welcome to the Tokyo Journal of Dementia Care Research: Message from the Editorial Chief.

山口晴保 認知症介護研究・研修東京センター

Haruyasu Yamaguchi, Tokyo Center for Dementia Care Research and Practices

認知症ケア研究の発展を願い、研究発表の場を広げようと、『認知症ケア研究誌』の発刊を企画し、2017年10月に発刊に至りました。

この研究誌の第一の特徴は、オンラインジャーナルだという点にあります。世界中の誰もがアクセスでき、誰もが無料で読めることです。まずは認知症介護情報ネットワーク（DCnet）への掲載となりますが、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）への掲載を申し込み、2018年度には掲載の許可をいただいております。そうなりますと、さらに多くの研究者の目に留まるようになると期待されます。

現在、本邦では、認知症ケア研究の原著論文を発表する代表的な場として認知症ケア学会の機関誌「日本認知症ケア学会誌」がありますが、これはオンライン化されておられません。さらに年会費を払った会員でないと読めません。ここに、このオンラインジャーナル『認知症ケア研究誌』が活用されるメリットがあります。キーワード検索して論文が見つければ、すぐにネットで読むことができます。ダウンロードも印刷も無料でできます。少し時間がかかりますが、医中誌検索システムへの登録も申し込む予定になっています。ぜひこのジャーナルを活用してください。

本誌は認知症介護研究・研修東京センターが発行元になっている関係で、全国の認知症介護指導者や認知症介護研究・研修3センターで各種の研修を受けた方々から

の投稿を想定して発刊しました。しかし、まずは軌道に乗せたいので、発刊から当面の間の経過措置として、認知症ケア研究に携わる方で投稿を検討される方は jdcrr@dcnet.gr.jp にメールで研究概要をご連絡ください。学会抄録程度（A4半ページか1ページ）で、たとえば「どんな人たちを対象にどんな介入をしたら、どんな評価尺度で、どんな効果があったか」「どんな人たちを対象に、どんな調査をしたら、どんなことが分かった」などをお知らせいただければ、論文として掲載の可能性はあるかどうか判断させていただき、アドバイスもさせていただきます（論文掲載を保証するものではありません。最終的には査読者の審査を経て採択された論文が掲載されます）。そのうえで論文を執筆・投稿していただき、ピアレビュー（1週間以内に査読者にまわすかどうかの判断）を経て、査読（約1か月間）を受け採択・修正後、採択・不採択と判定される過程を踏んでいただきます。投稿希望が増えすぎると、それに応えきれない事態が生じるかもしれませんが、そのような嬉しい悲鳴になることを期待しております。

なお、「日本認知症ケア学会誌」のような「原著」「研究報告」といったジャンルは設けません。オリジナルの研究論文はすべて「原著論文」とします（「短報」も原著論文です）。査読付き原著論文として、皆様の研究業績となりますので、ぜひご活用ください。原著論文の他に、総説、事例

報告、地域実践報告のジャンルがあります。

さて、本誌はまず東京センターが刊行し、順当に広がるようであれば認知症介護研究・研修3センターの合同事業に発展する予定になっています。このため、現時点では英文誌名をTokyo Journal of Dementia Care Researchとしましたが、今後3センター合同事業となれば、英文誌名をJapanese Journal of Dementia Care Researchとしたいと考えております。海外に似たような名称の研究誌があるため、日本発の研究誌であることを明確にするためにはTokyoまたはJapaneseを入れる必要を感じています。

本誌が認知症ケアの現場で役立つ研究情報を満載できるようになるまで成長することを夢見ているのですが、それを夢で終わらせないようにするには、皆様の協力が必要です。皆様のお力添えによって、この『認知症ケア研究誌』を温かく育んでください。

本誌は多くの方の協力で査読や編集作業が行われます。ご協力いただいている方々に感謝します。なお、査読委員や編集委員は投稿規定に記載しております。

最後までお読みいただき感謝します。